資料２－１

令和６年１１月１１日

千葉県保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業に関する アンケート調査　結果概要 ＜速報版＞

１．調査概要

(1) 目　的：千葉県立保健医療大学（以下、保医大という）の機能強化に向け、現状分析の調査を目的としたアンケート調査を実施し、本調査検討における基礎資料とするため。

(2) 期　間：令和 6 年 10 月上旬から 10 月下旬

(3) 方　法：郵送調査、WEB 調査、郵送と WEB のハイブリット調査にて、対象にあった形式での調査を実施。調査票の配布後、調査票に回答を記入し返送。（紙形式(郵送調査)・WEB 形式により回答）

(4) 実施先：①高校生、②保医大在学生、③保医大卒業生、④保健医療従事者、⑤保健医療機関等を対象に実施。

(5) 調査主体：千葉県健康福祉部医療整備課および日本開発構想研究所にて実施。
(実施に際しては保医大教職員の意見も参考とした。)

２．速報版について

本速報版は、10 月 17 日（木）までの回答結果を対象として集計を行っている。アンケート調査の全体集計結果については、調査検討会議報告書の作成までを目途にまとめる予定である。

速報版の主な調査結果は以下の通りとなる。

No	調査対象	依頼日（発送日）	回答期限	依頼先・配布数	各回答期限時点		集計速報値データ(10/17(木)～)	
					回答数	回収率	回答数	回収率
①	高校生	10/1(火)	10/18(金)	21 校、13.200 名	17 校 8,830 名	66.9%	5 校 2,740 名	23.8%
②	保医大在学生	10/9(水)	10/23(水)	727 名	485 名	66.7%	442 名	60.8%
③	保医大卒業生	10/9(水)	10/23(水)	2,100 名程度	488 名	23.2%	276 名	13.1%
④	保健医療従事者	10/4(金)~10/7(月)	10/18(金)	4,000 名程度	534 名	13.4%	431 名	10.8%
⑤	保健医療機関等	10/4(金)~10/7(月)	10/18(金)	372 施設、1,113 枚	118 件	10.6%	76 件	6.8%

３．調査結果要旨（速報版）

調査対象	依頼先（配布数）	回答数・回収率	速報値集計対象	アンケート項目
①高校生	千葉県内外の 保医大への進学実績がある 高校２・３年生 （21 校、13,200 名）	回答数： 17 校（8,830 名） 回収率： 66.9%（8,830 名 /13,200 名）	集計数： 5 校（2,740 名）	・属性（性別・学年・現住所等） ・進学全般について（学部・分野） ・保医大全般について（認知度、印象） ・保健医療分野の興味関心について ・保医大への進路希望について
②保医大 在学生	保医大　1～4 年生 ①看護学科 ②栄養学科 ③歯科衛生学科 ④理学療法学専攻 ⑤作業療法学専攻 （727 名）	回答数：485 名 内訳①185 名 ② 81 名 ③ 98 名 ④ 86 名 ⑤ 35 名 回収率：66.7%	集計数：442 名 内訳①150 名 ② 80 名 ③ 98 名 ④ 86 名 ⑤ 28 名	・属性（所属、学年、現住所等） ・保医大進学理由 ・施設・設備・環境の満足度と改善点 ・教育内容の満足度と改善点 ・キャンパスの立地について ・大学院進学ニーズについて
③保医大 卒業生	保医大卒業生（H24～R5 卒） ①看護学科 ②栄養学科 ③歯科衛生学科 ④理学療法学専攻 ⑤作業療法学専攻 （2,100 名程度）	回答数：488 名 内訳①165 名 ② 56 名 ③ 67 名 ④107 名 ⑤ 93 名 回収率：23.2%	集計数：276 名 内訳①124 名 ② 51 名 ③ 40 名 ④ 61 名 ⑤ 0 名	・属性（年齢、卒業学科、最終学歴、卒業後の進路） ・保医大進学理由 ・施設・設備・環境の満足度と改善点 ・キャンパスの立地について ・学びたい専門知識・技術、能力のニーズ ・資格・免許について ・大学院進学ニーズについて
④保健医療 従事者	保健医療従事者・専門職者 (看護師、保健師、助産師、栄養士、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等) ①県内 200 床以上病院 ②県内市町村、保健所 ③県内保健医療・福祉施設 （保医大内定先・実習先） (合計 4,000 名程度)	回答数：534 名 (紙：103 名、 WEB：431 名) 回収率：13.4%	集計数：431 名 (WEB 回答のみ集計) 内訳： 看護職者…205 名 栄養関係…76 名 歯科関係…34 名 リハビリ関係… 116 名	・属性（年齢、最終学歴、現在の職種・職務内容） ・学びたい専門知識・技術、能力のニーズ ・資格・免許について ・保医大に求める教育内容 ・大学院進学ニーズについて
⑤保健医療 機関等	保健医療機関等の人材採用担当・育成担当者 ①県内 200 床以上病院 ②県内市町村、保健所 ③県内保健医療・福祉施設 （保医大内定先・実習先） (合計 372 施設、1,113 件)	回答数：118 件 (紙：42 件、 WEB：76 件) 回収率：10.6%	集計数：76 件 (WEB 回答のみ集計)	・属性（所在地、種別、従業員規模） ・保健医療職者の採用状況 ・採用者に求める資質等 ・従業員の現任教育（職場内研修・職場外研修・自己啓発・ジョブローテーション）状況 ・大学院修了生・専門人材の必要性 ・保医大修了生の採用ニーズ

(1) 高校生アンケートについて

高校生の保医大への進学需要及び新たな学びへの興味・関心について、以下、概要を中心に記載する。

【調査結果の概要】

◆「進学を考える学問分野」は、

・「経済学・経営学・商学関係」が最も高く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」の順である。保医大に関係する分野の中では「看護学関係」が 5 番目に高い。

◆「保医大の認知度」は、

・「知っている」が 4 割強に対し、「知らない」が 5 割強と半数以上を占める。

◆「保医大への受験希望」は、

・保医大に「大いに興味関心がある」、「興味関心がある」、「少し興味関心がある」と回答した 396 名のうち、「第 1 志望として受験したい」が 2 割弱、「第 2 志望以下として受験したい」が 1 割強で、あわせて 3 割強の高校生が保医大への受験を希望している。

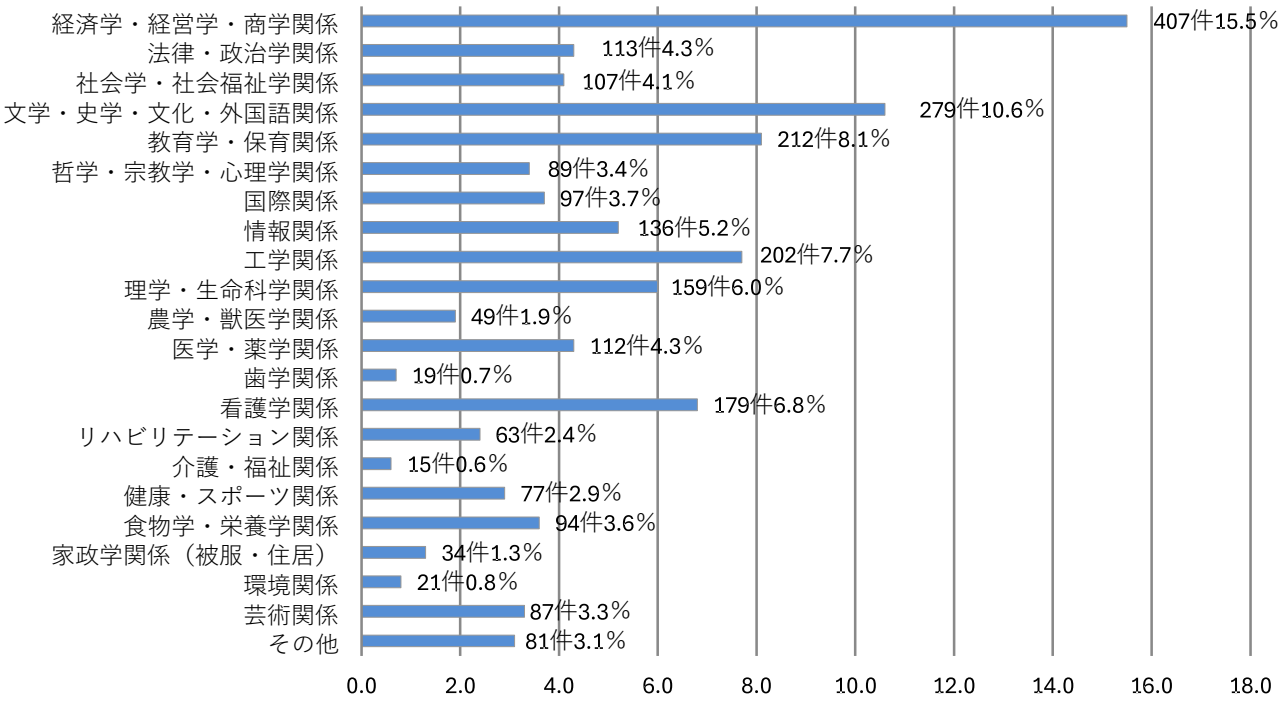
◆「受験を希望する保医大の学科・専攻」は、

・保医大を受験したいと回答した 125 名のうち、看護学科が 5 割強と最も高い。次いで栄養学科、リハビリテーション学科(理学療法学専攻)、歯科衛生学科、リハビリテーション学科(作業療法学専攻)の順となる。

◆「データサイエンスへの興味・関心」と「デジタルヘルスへの興味・関心」は、

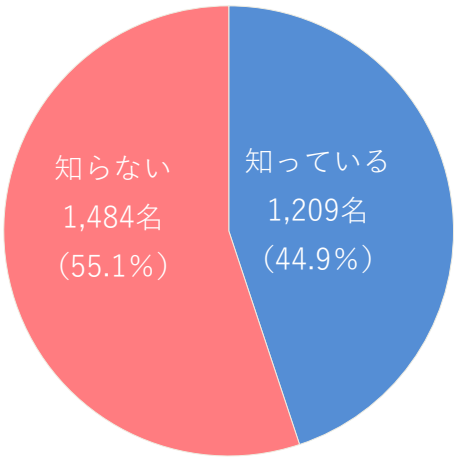
・どちらも、半数近くにあたる 5 割弱の高校生がなんらかの興味・関心を持っている。

【進学を考える学問分野（第 1 希望）】　n = 2,632 名



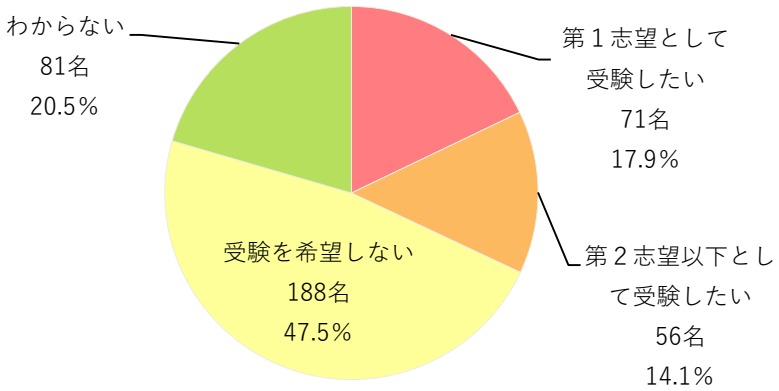
【保医大の認知度】

n ＝2,693 名



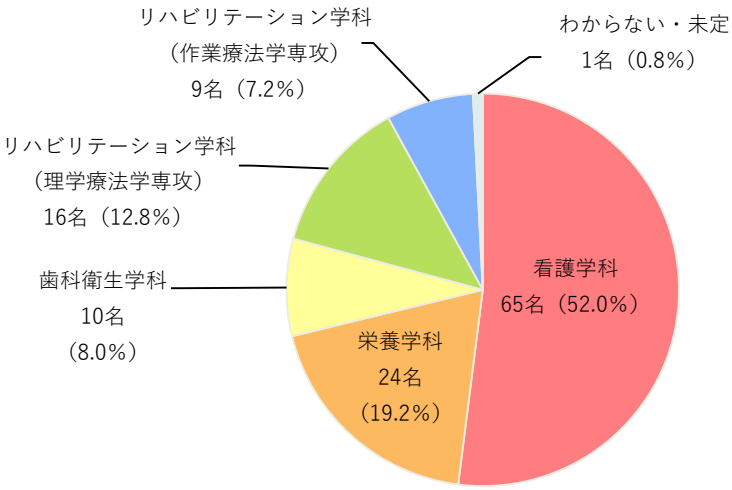
【保医大への受験希望】

n ＝396 名



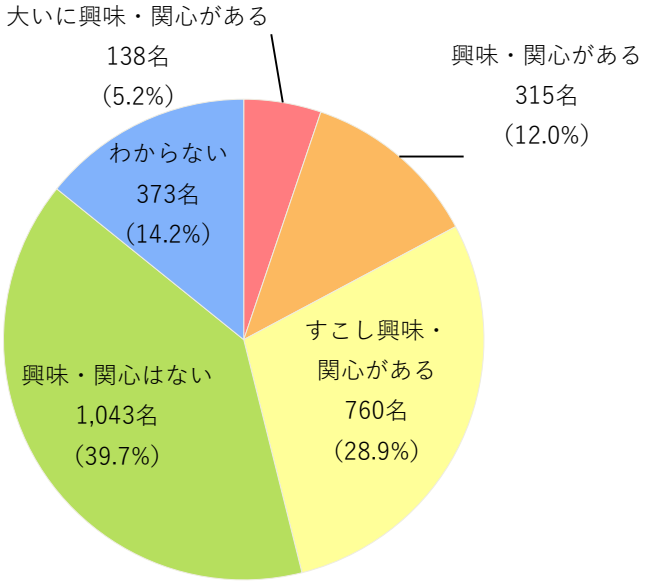
【受験を希望する保医大の学科・専攻(第１希望)】

n ＝125 名



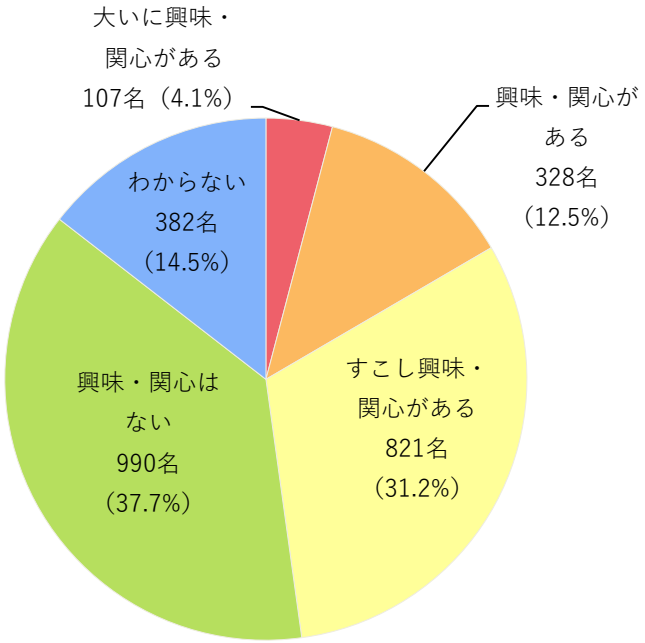
【データサイエンスへの興味・関心】

n = 2,629 名



【デジタルヘルスへの興味・関心】

n = 2,628 名



(2) 在学生アンケートについて

キャンパス・教育・学生生活への満足度及び大学院への進学希望について、以下、概要を中心に記載する。

【調査結果の概要】

◆「保医大の 2 キャンパス体制（幕張・仁戸名）」は、
- 「満足している・やや満足している」が 3 割強、「あまり満足していない・不満である」が 3 割弱と、拮抗している。

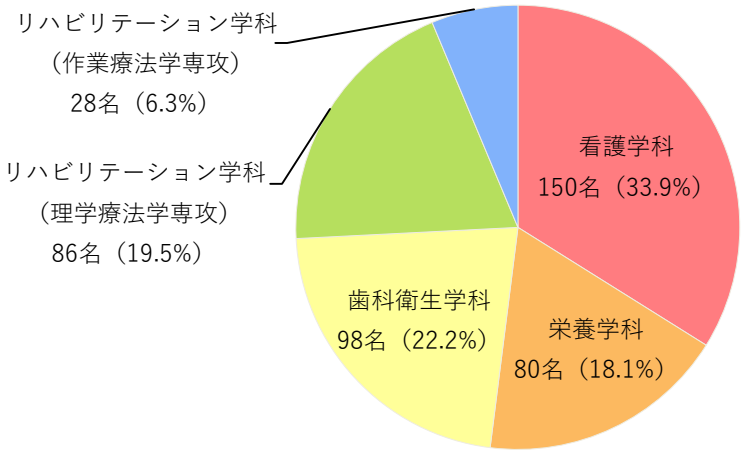
◆「保医大のキャンパス立地への意見」は、
- 「幕張キャンパスに統合すべき」が 4 割強と最も高いが、「わからない」も 4 割弱となっている。

◆「保医大の教育内容で満足している点」は、
- 「専門科目の内容が充実している」は 7 割強の在学生が満足点としている。他、学内実習の充実度や少人数教育も 5 割弱が満足点としている。

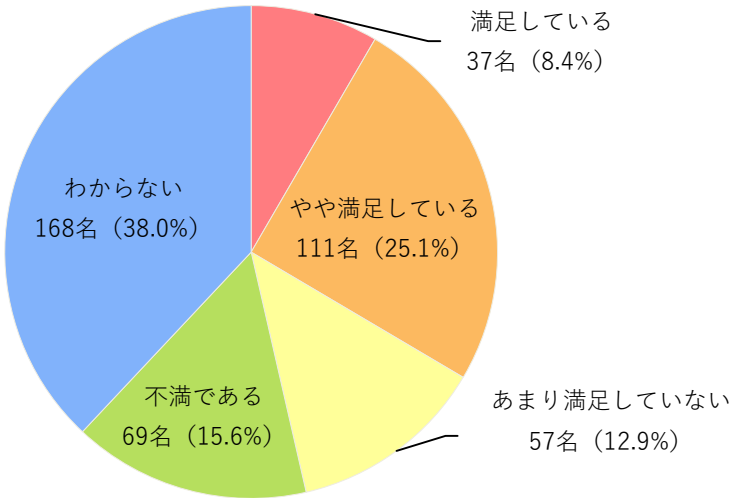
◆「大学院への進学希望」は、
- 大学院になんらかの進学意向を持っている在学生を合計すると、3 割弱となる。

◆「保医大での学生生活の満足度」は、
- 「満足している・やや満足している」が 8 割弱と、高い満足度が伺える。

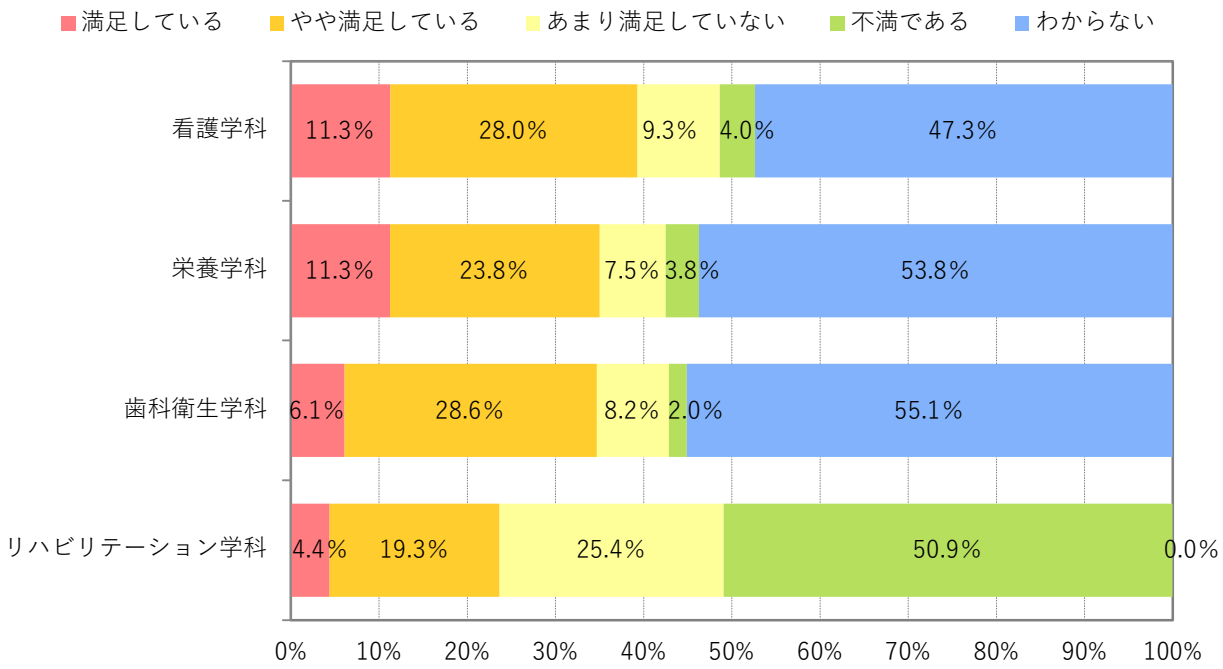
【回答者の所属学科】　n = 442 名



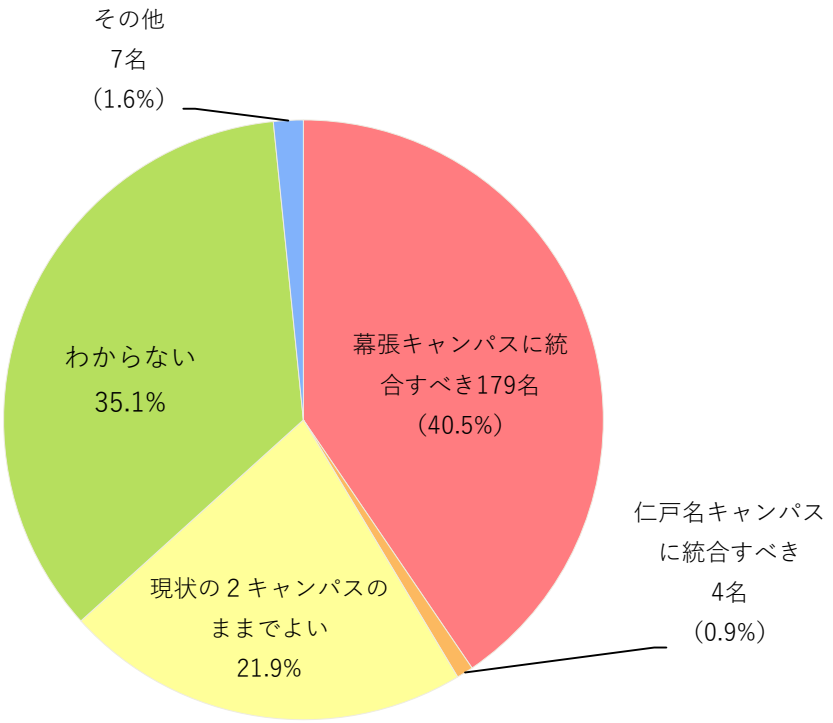
【保医大の 2 キャンパス体制（幕張・仁戸名）】　n = 442 名



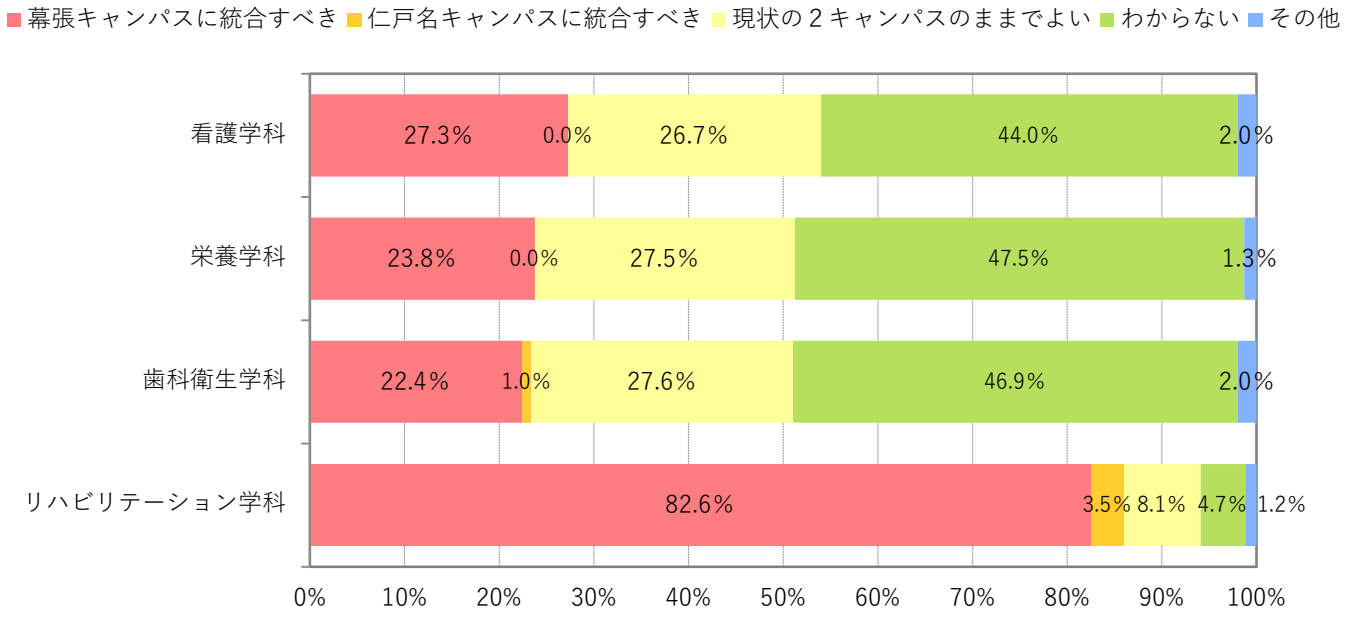
＜参考：学科別回答結果＞



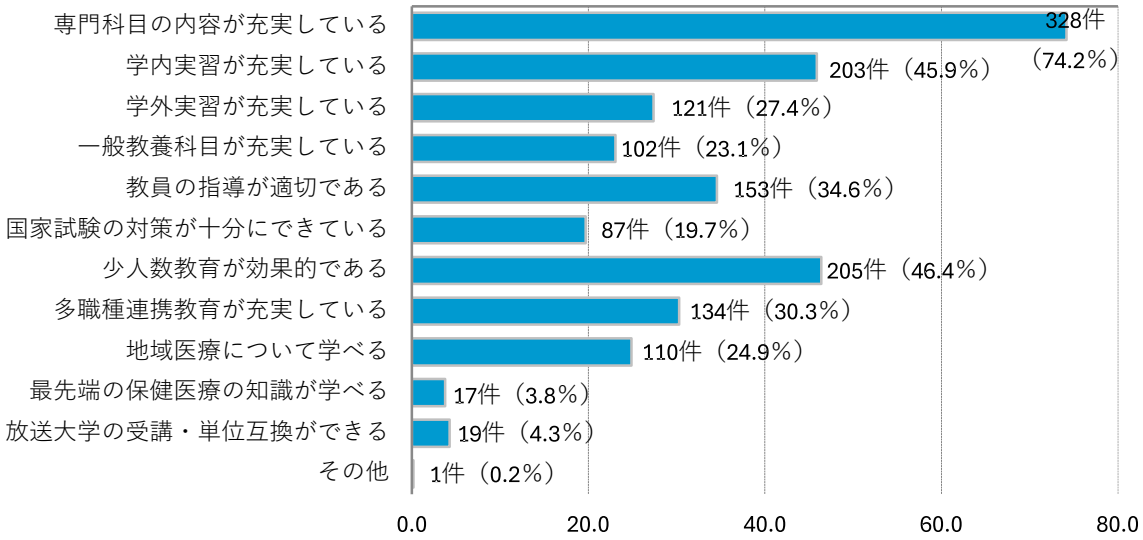
【保医大のキャンパス立地への意見】　n = 442 名



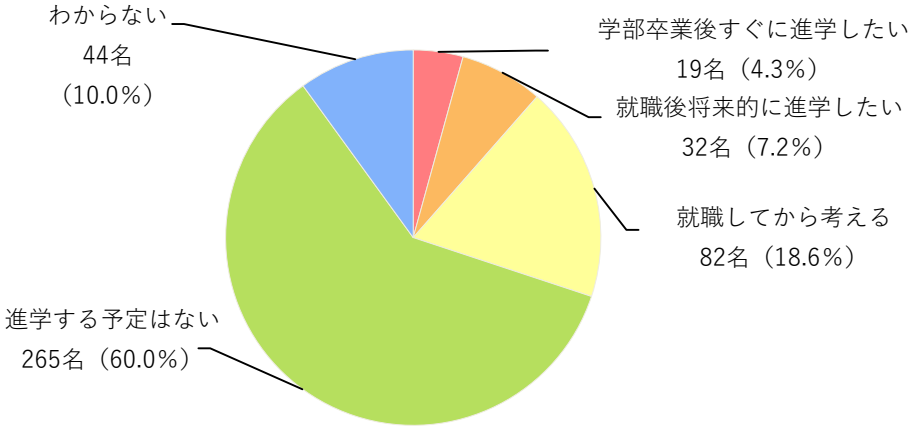
＜参考：学科別回答結果＞



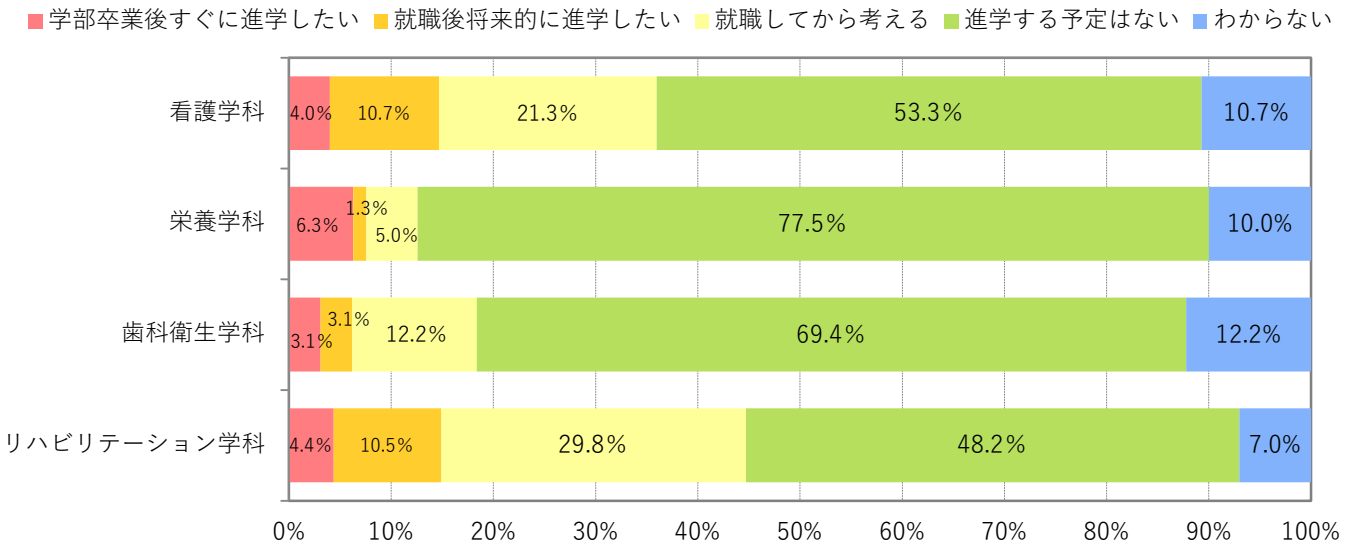
【保医大の教育内容で満足している点】　n = 442 名（複数回答）



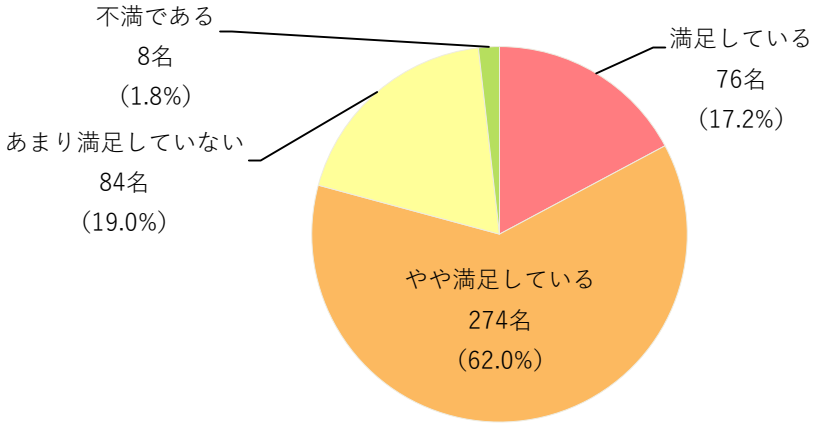
【大学院への進学希望】　n = 442 名



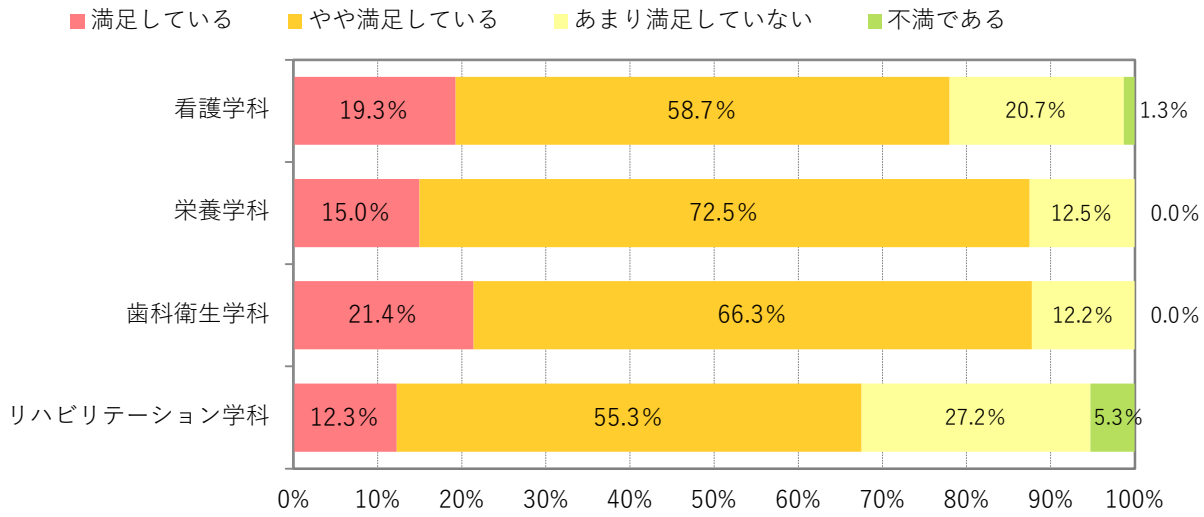
＜参考：学科別回答結果＞



【保医大での学生生活の満足度】　n = 442 名



＜参考：学科別回答結果＞



(3) 卒業生アンケートについて

卒業生のキャンパスへの満足度とスキルアップへの希望、大学院への潜在的な進学希望について、以下、概要を中心に記載する。

【調査結果の概要】

◆「保医大の 2 キャンパス体制（幕張・仁戸名）」は、

・「満足していた・やや満足していた」が 3 割強、「あまり満足していなかった・不満であった」が 3 割弱と、拮抗している。

◆「保医大のキャンパス立地への意見」は、

・「幕張キャンパスに統合すべき」が 5 割弱と最も高いが、「わからない」も 3 割強となっている。

◆「これから身につけたい知識・技術・能力等」は、

・「自身の専門分野に関わる最新の高度な知識」が 7 割弱と最も高い。次いで「実践現場の課題解決能力」、「地域医療等今後の保健医療課題に関わる知識・技術」、「新たな資格取得」が 3 割弱となっている。

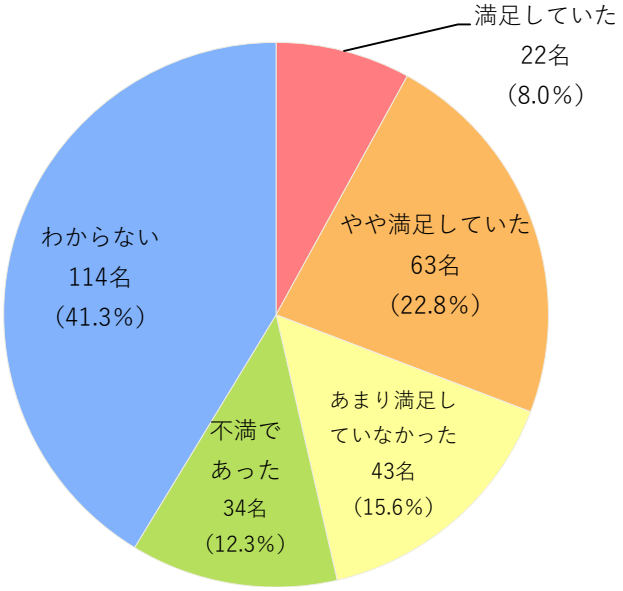
◆「大学院への進学希望」は、

・修士課程・博士課程ともに、受験・進学について「具体的に計画している・将来的に希望している」は 1 割未満である。

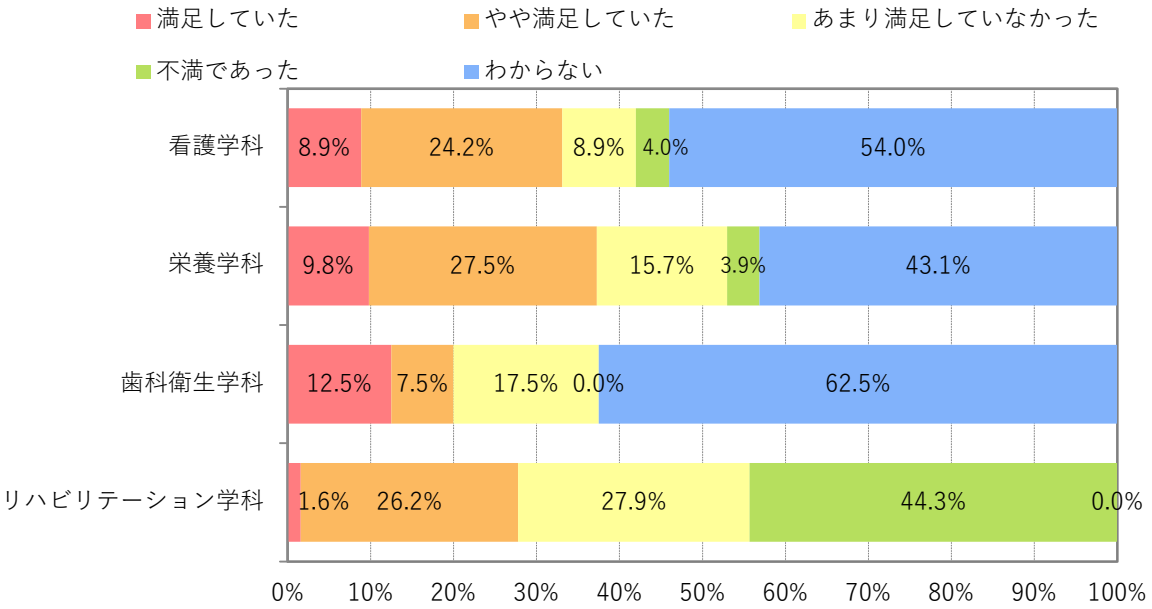
◆「大学院への進学を希望する理由」は、

・「専門職としてステップアップしたいから」が 8 割強と最も多く、次いで「高度な知識・技術を身につけたいから」、「学位（修士）を取得したいから」が 6 割弱となっている。

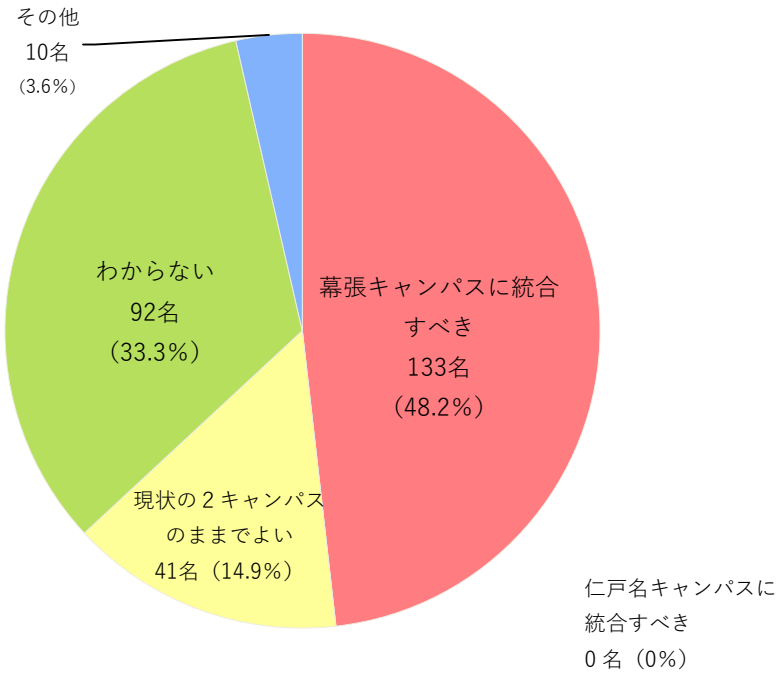
【保医大の 2 キャンパス体制（幕張・仁戸名）】　n = 276 名



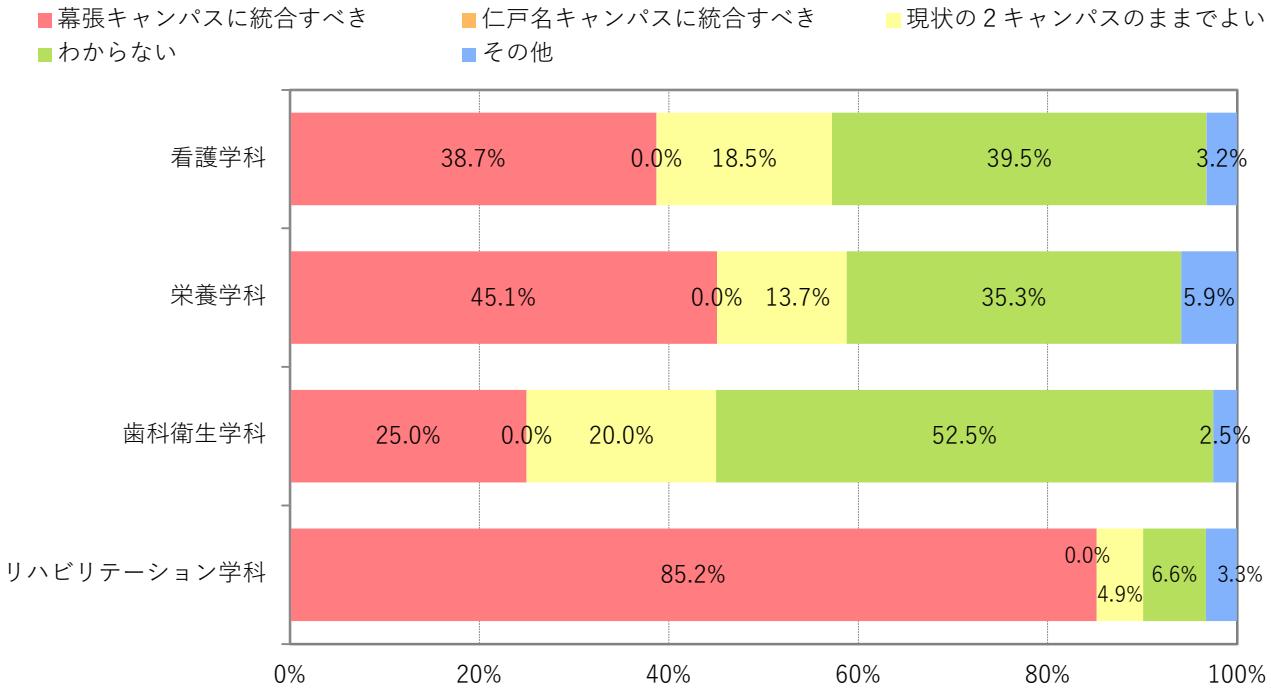
＜参考：学科別回答結果＞



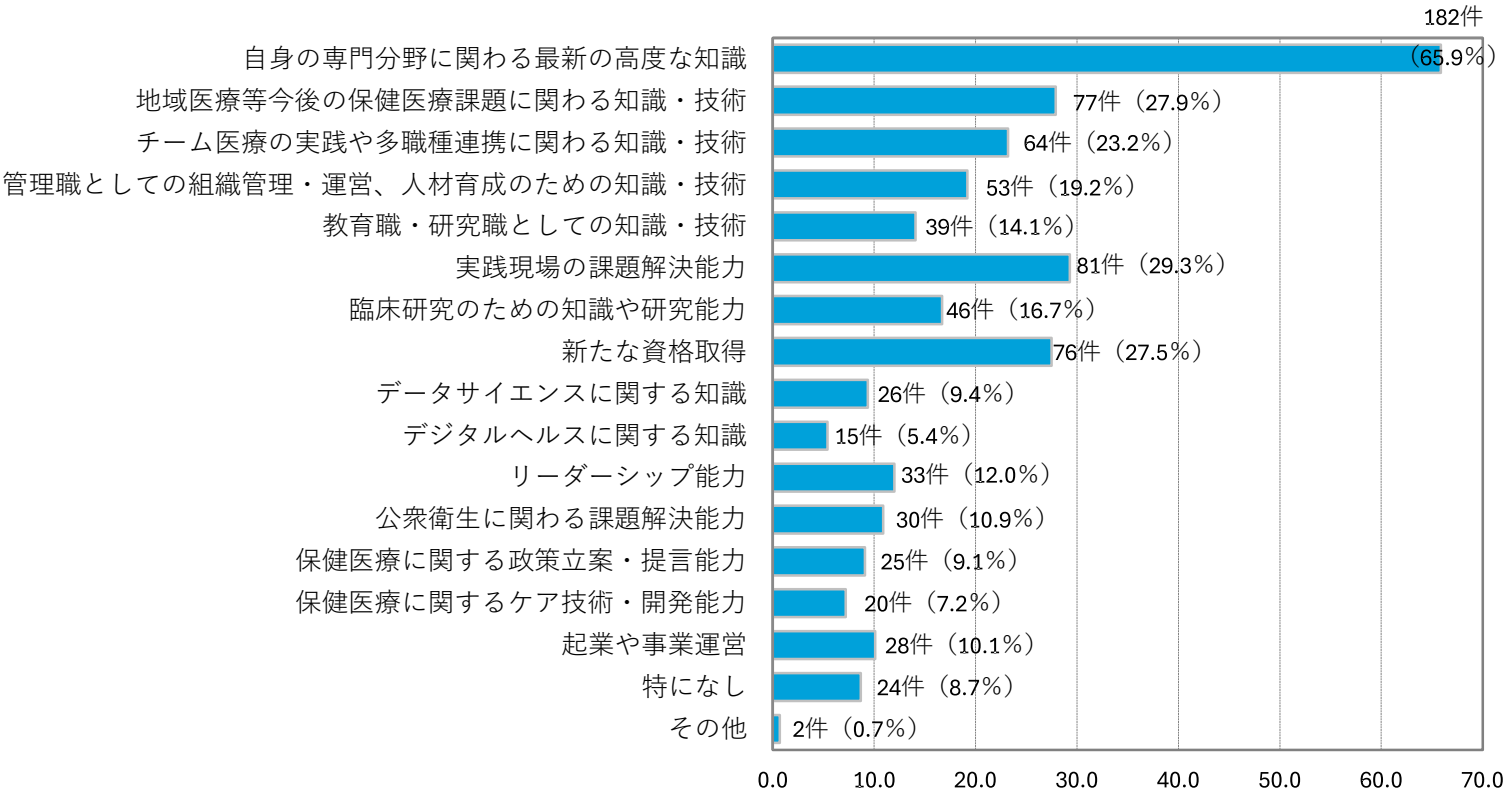
【保医大のキャンパス立地への意見】　n = 276 名



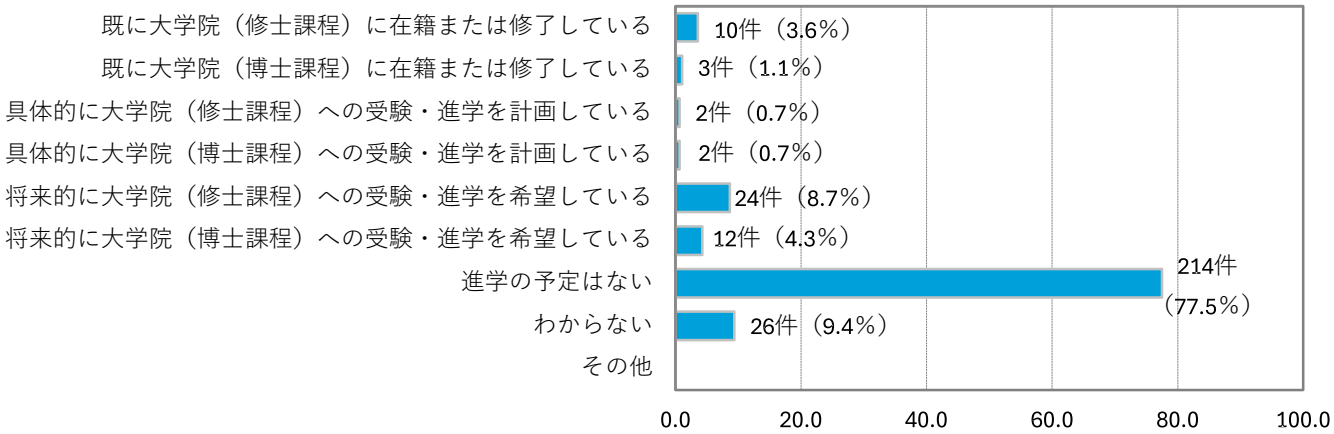
＜参考：学科別回答結果＞



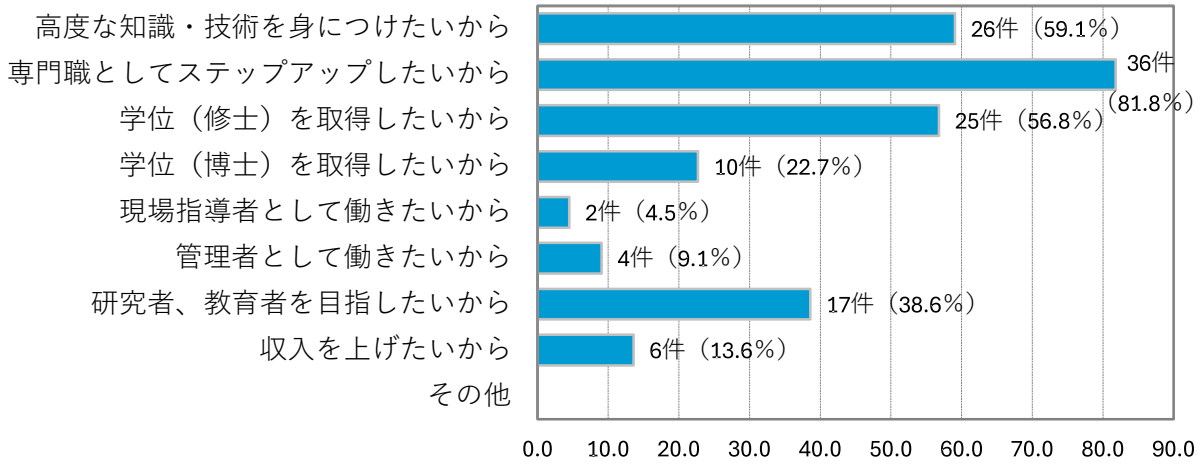
【これから身につけたい知識・技術・能力等】　n = 276 名（複数回答）



【大学院への進学希望】　n = 276 名



【大学院への進学を希望する理由】　n = 44 名（複数回答）



(4) 保健医療従事者アンケートについて

スキルアップへの希望と大学院への潜在的な進学希望について、以下、概要を中心に記載する。

【調査結果の概要】

◆「これから身につけたい知識・技術・能力等」は、

・「自身の専門分野に関わる最新の高度な知識」が 6 割強と最も高い。次いで「地域医療等今後の保健医療課題に関わる知識・技術」が 4 割弱、「実践現場の課題解決能力」が 3 割強と続く。

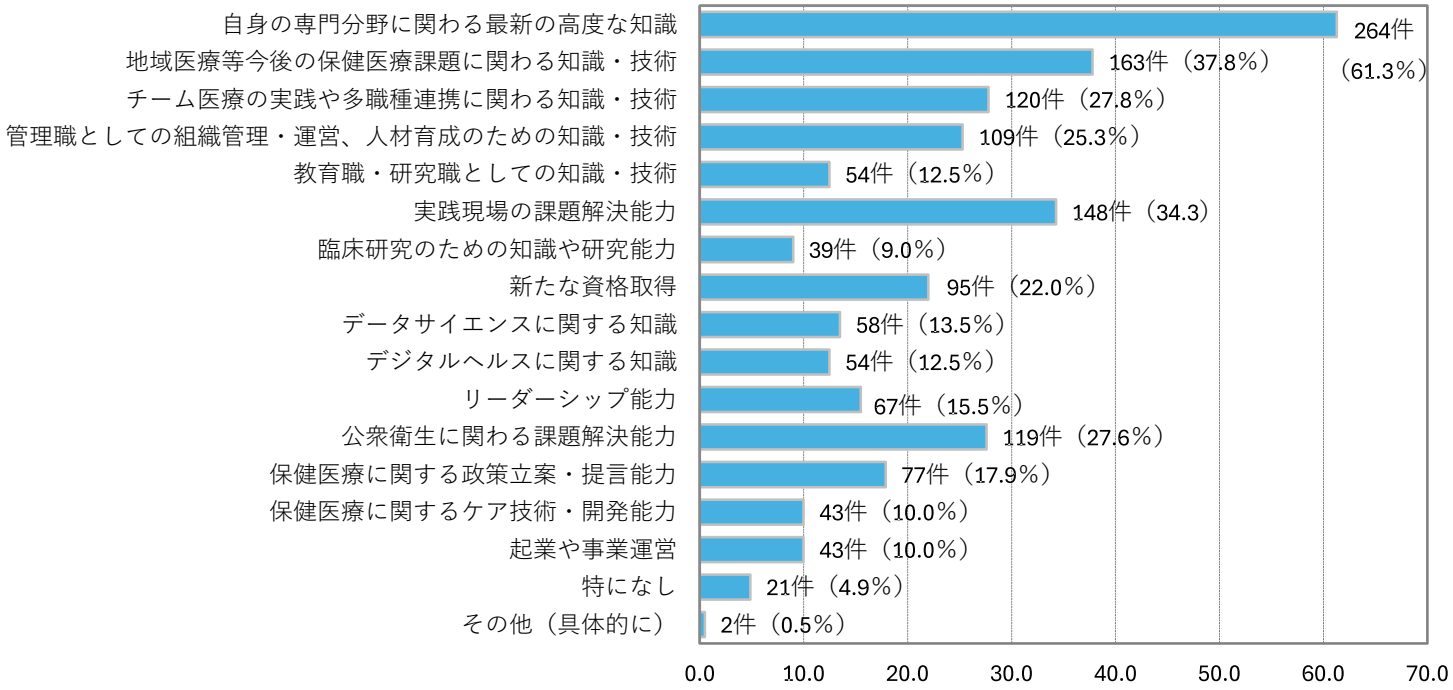
◆「大学院への進学希望」は、

・大学院への受験・進学を計画・希望している保健医療従事者は 1 割未満である。

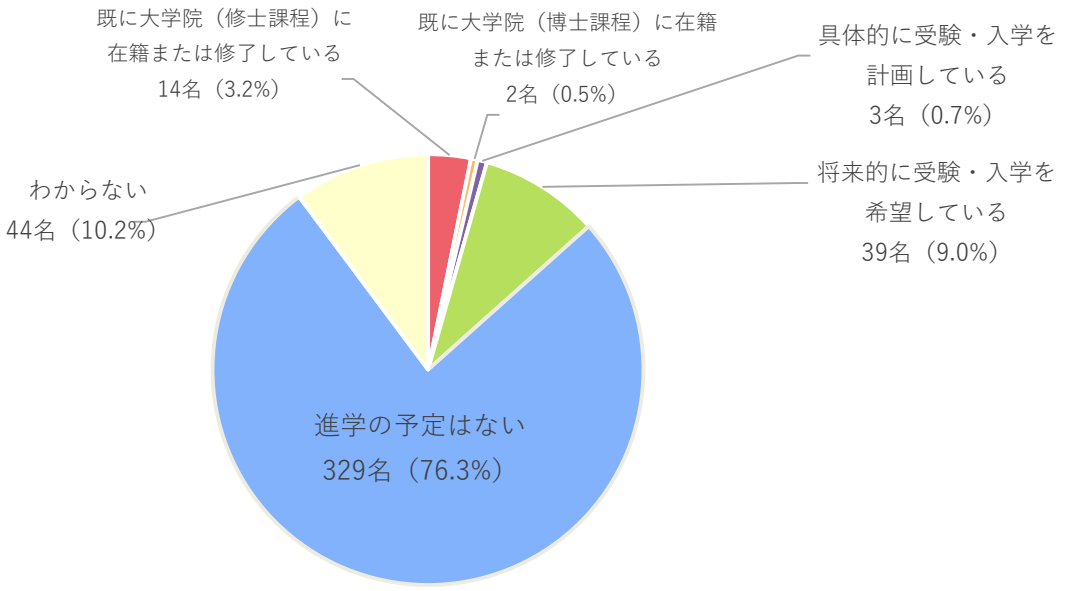
◆「大学院への進学を希望する理由」は、

・「高度な知識・技術を身につけたいから」が 6 割弱と最も高い。

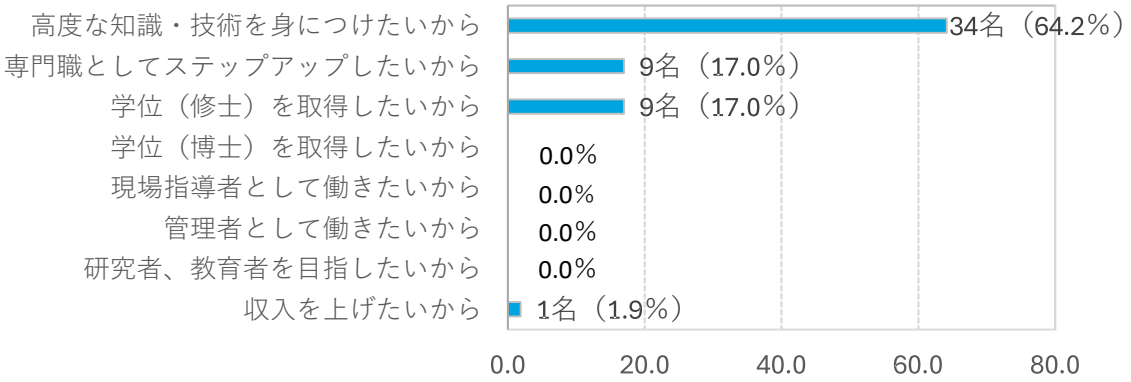
【これから身につけたい知識・技術・能力等】 n = 431 名



【大学院への進学希望】　n = 431 名



【大学院への進学を希望する理由】　n = 53 名（複数回答）



(5) 保健医療機関等アンケートについて

保健医療機関等の採用希望と大学院修了者の採用意向について、以下、概要を中心に記載する。

【調査結果の概要】

◆「専門資格に加えて今後必要となる人材」は、

・「多職種連携に必要なスキルを有する人材」が 7 割弱と最も高い。次点で「デジタル領域に強みのある人材」が 2 割弱と続く。

◆「採用・配置の増員を望む卒業区分」は、

・「大学卒」を希望する施設・事業所が 7 割強と最も高い。他、大学院の修士・博士もあわせて 4 割弱が希望しており、高い専門性を重視している。

◆「在職中の授業員が大学院へ進学することの意向」は、

・半数の施設・事業所が奨励しており、従業員の専門性を高めるニーズが伺える。

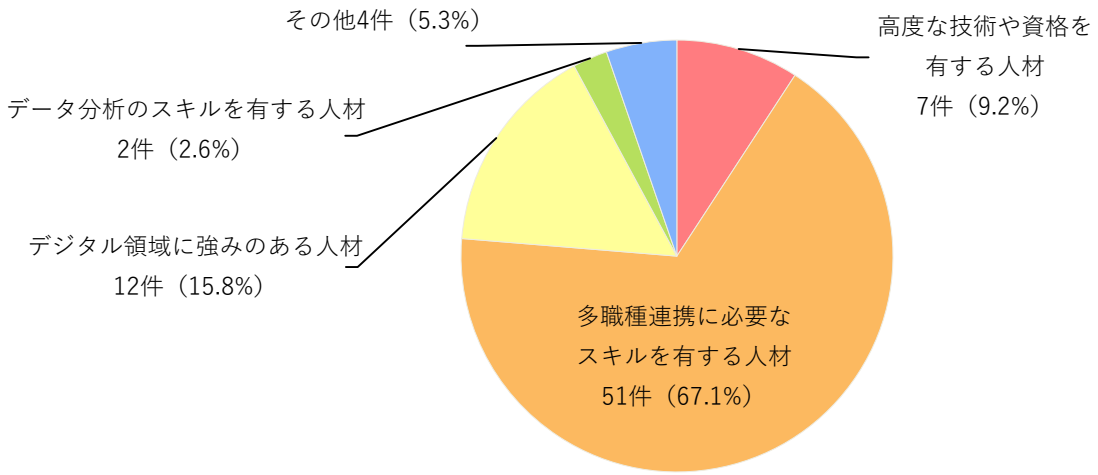
◆「保医大が大学院を開設した場合の修了者の採用意向」は、

・保健医療分野の修士課程修了者の採用意向を持つ 26 件のうち、「採用を希望する」が 4 割強と最も高い。次点で「採用を検討する」が 4 割弱と続き、保医大が養成する大学院人材に高い採用希望を持っている。

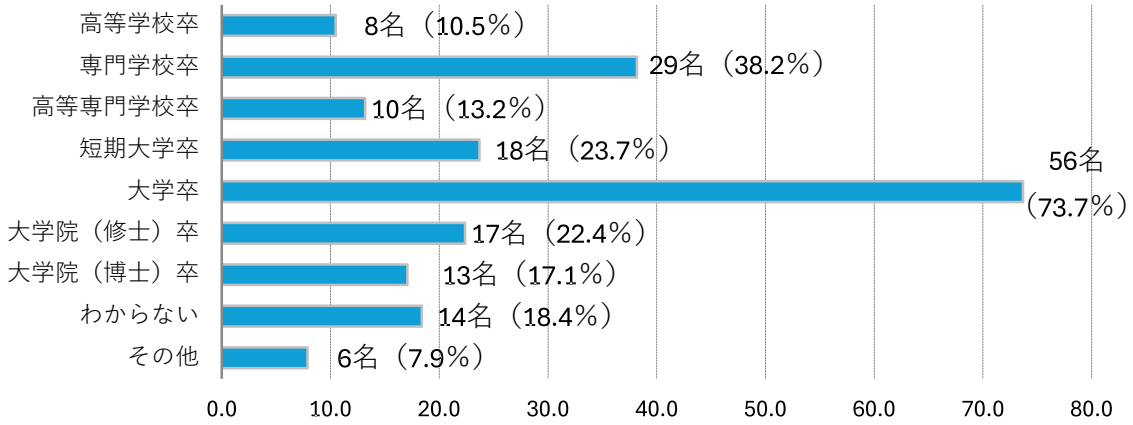
◆「年間の平均採用人数と採用希望人数」は、

・特に看護師や保健師、リハビリ関係職種では、希望する採用人数に届いていない。

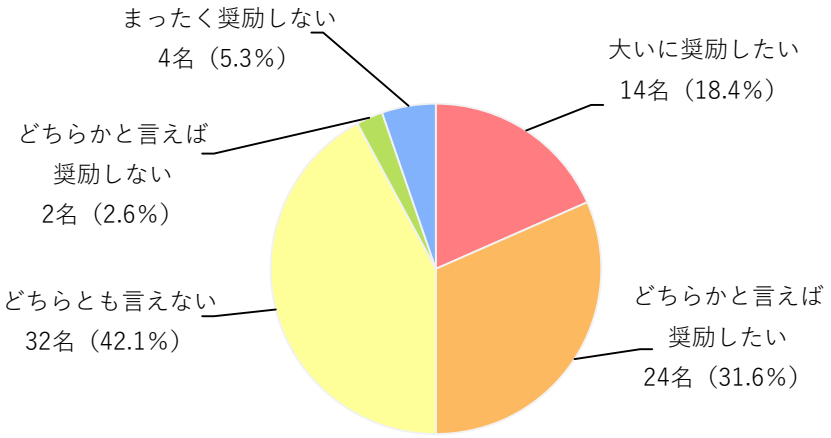
【専門資格に加えて今後必要となる人材】 n = 76 件



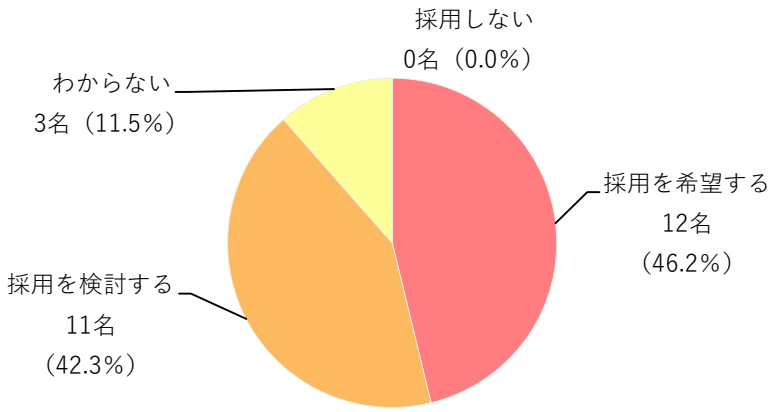
【採用・配置の増員を望む卒業区分】 n = 76 件（複数回答）



【在職中の授業員が大学院へ進学することの意向】　n = 76 件



【保医大が大学院を開設した場合の修了者の採用意向】　n = 26 件



【各職種の需給比較】

No	職種	問5　年間平均採用人数		問6　年間採用希望人数	
		回答件数	実数(計)	回答件数	実数(計)
①	看護師	28	568	32	710
②	保健師	17	37	20	50
③	助産師	5	8	4	7
④	栄養士	5	5	6	6
⑤	管理栄養士	12	18	17	23
⑥	歯科衛生士	9	18	10	19
⑦	歯科技工士	0	0	1	1
⑧	理学療法士	17	90	18	100
⑨	作業療法士	22	74	25	104
⑩	言語聴覚士	12	20	16	37

以　上

資料２－２

令和６年 11 月 11 日

教職員ヒアリング調査について

１．概要

(1)目　的：教育・研究・施設設備等の現状の課題およびニーズを把握するため。

(2)時　期：令和６年　８月 28 日（水）幕張キャンパス

10 月　８日（火）仁戸名キャンパス

(3)実施先：（教員）学長、副学長、健康科学部長、

学科専攻長（看護・栄養・歯科衛生・リハビリテーション理学療法学専攻、リハビリテーション作業療法学専攻）

（職員）事務局長、企画運営課長、学生支援課長、施設・設備担当職員

(4)調査主体：千葉県健康福祉部医療整備課および日本開発構想研究所にて実施。

２．調査・質問項目等

(1)教員ヒアリング

① 大学全般について

ｉ）教育研究面について

ア）デジタル化の遅れ

- タブレットや映像授業等のデジタルツールを活用した教育が行われておらず、医療現場のデジタル化に対応できていない。

イ）各学部・学科における教育研究面について

- 下記、「２．（1）③学部・学科について」参照

ⅱ）施設設備面について

ア）　幕張キャンパスの教育・研究スペースの不足

- グループワークや実習に必要な教室やゼミ室の不足が深刻で、80 名規模の看護実習スペースも狭く、安全性に問題がある。

イ）仁戸名キャンパスのアクセス、２キャンパス体制と施設の課題

- 通学時の安全性に問題があり、懸念が大きい。
  （大学では推奨していないものの、通学が至便であるため大森台駅から仁戸名市民の森を利用し通学する学生も一定数いる様子であり、仁戸名市民の森はほぼ街灯もなく人通りも少ないことから、特に夜間の安全性に課題があること。またキャンパス内から大網街道へのバス停までも街灯が限られていること等。）
- 近隣住民が車の通り抜けで利用するキャンパス内道路は校舎脇で 90 度の曲がり角があり、街灯が少なく視認性が悪いため、夜暗くなると危険である。
- リハビリテーション学科は 1･2 年幕張キャンパス（週１，２回仁戸名で授業）、

3・4年仁戸名キャンパスとキャンパスが分かれている。リハ学科の専任教員は主に仁戸名で教育研究を行うため1・2年生への指導が手薄になる。

- キャンパス間移動の負担が授業スケジュールやサークル活動に影響を及ぼしている。移動の交通費も含めリハビリテーション学科の学生に負担を強いている。
- 通信環境の不備や教室の狭さ、バリアフリー対応の不足も、教育環境の大きな課題となっている。

ウ）施設設備の老朽化

- 幕張キャンパス、仁戸名キャンパスとも校舎は旧衛生短期大学及び旧医療技術大学校時代の建物を使用しており、内装・外装とも老朽化が進み、空調設備・衛生設備の不具合も多い。
- 食堂、売店、憩いの場や交流施設など学生の福利厚生施設が十分整備されていない。
- 他の公立大学と競合・比較される中、選ばれる大学となるためにはキャンパス立地の検討や校舎施設の充実・改善が必要。

ⅲ）その他必要な機能について

ア）言語聴覚士（ST）に関する現状と課題

- 千葉県保健医療計画にもある通り、令和２年１０月現在、千葉県の医療施設で就業する常勤換算の言語聴覚士数は６７０．０人であり、人口１０万対では１０．７と、全国平均１４．２を下回っており、県内での人材不足が深刻。
- また言語聴覚士を養成する大学について、千葉県では国際医療福祉大学（成田保健医療学部 言語聴覚学科、入学定員 40 名）、公立大学は県立広島大学（保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース、入学定員 30 名）に限られる。
- 以前歯科衛生学科での言語聴覚士養成課程を検討したことがあったが、コース設置は、教育課程、教員配置、カリキュラム構築が難しく、断念した経緯がある。
- 現在であればリハビリテーション学科内での言語聴覚士養成（コース・専攻設置等）が現実的で、志望者のニーズも高まる可能性がある。
- 言語聴覚士コースに対する学生からの志望動向を把握するため、ニーズ調査を実施する必要があると学内での意見がある。

イ）国際交流の現状

- 韓国仁済（インジェ）大学との学術協定があり、今後の交流機会を広げたい。
- 米国ウィスコンシン州と千葉県は姉妹都市提携を行っており、千葉大学はウィスコンシン大学・ミルウォーキー校との大学間学術交流協定を締結しているこ

ともあり、保医大も将来的な交流を実施したい。

- 近隣の神田外語大学の留学生との交流も行われており、今後、大学間連携を強化することも検討したい。

② 大学院について

- 将来構想委員会として健康科学研究科健康科学専攻(１研究科１専攻)を構想。
- 理由は、「近隣大学院で定員割れを起こしていること」「看護・リハ等色々な学生が集まってくると想定したこと」「研究科で定員（20 名程度）を定め、割合等定めずに入学年ごとにそれぞれの領域に配置したいこと」等による。
- 開設時期的には 2030 年度の開設を目標に検討。
- 大学院の強みは、県立大学として千葉県とのつながりがあること、地域包括ケアシステムを先導・推進する等健康施策に資する研究を行うこと、行政を含めた多角的な視野から教育研究にアプローチすること、複数の専門職を輩出できること、保健医療の仕組みづくりを担うこと等を想定し、他大学院との差別化を図る
- 上記に加え、保健医療の DX 化に伴う実装研究や医療政策・災害医療に関する研究拠点の役割を持たせたい。
- 国の実情を踏まえて研究を進める役割を千葉県の県立大学として担う。
- 養成する人材像は、以下を想定
  - ・医療・介護・福祉現場を往還して活動する高度保健医療人材（実践者）
  - ・医療・介護・福祉現場の組織課題を見出し、課題解決に向け活動する教育者・管理者
  - ・地域住民や企業との協働・連携の方策を見出し、県民の健康づくりに向け活動する自治体・行政の医療職者
  - ・千葉県保健医療計画をはじめとする千葉県総合計画の推進につながる研究を実施する研究者
- 健康科学研究科健康科学専攻の中に、看護学領域、地域健康科学領域の２つの専門領域を設けたい。地域健康科学領域では地域ケア学（仮）等も含め、福祉分野等にも門戸を広げたい。
- 学位について、神奈川県立保健福祉大学を参考に学科構成に基づいて、専攻分野の種類を定めたい。(修士は領域毎に設定（看護学領域は修士（看護学)、栄養学領域は修士（栄養学）等。)
- 博士は複合した学位を想定（健康科学研究科であれば、博士（健康科学）等)。

  ⇒ヒアリング内の意見交換において、１研究科１専攻で複数の学位を授与する大学院を設置する場合には、文部科学省への設置認可申請において、教育課程や養成する人材像の観点から説明が求められる旨、意見交換を行う。(１研究科複数専攻でない（学部の学科構成と同様でない）等の理由にて)

③ 学部・学科について

ｉ）看護学科

【現状】

ア）定員と資格取得

看護学科の定員は 80 名。全員が看護師と保健師資格を取得でき、助産師資格は希望者（最大 10 名）が選択可能。2 つの資格を取得できることが大きな強み。

イ）学生評価と教育環境

学生の評判は非常に良く、教員による細やかな教育が高評価。特に 80 名規模の少人数制が良質な教育を可能にしている。

ウ）実習施設

実習施設の確保が難しい。特に保健師、小児領域、母性領域の施設確保が困難であり、県内でも実習施設の不足が問題。

エ）助産師資格

助産師の資格取得は希望制で 10 名までだが、スケジュールが過密なため、実際に資格を取得する学生は 5～6 名程度。助産師の人材については地域からの要望がある。

補足

・現在助産師養成課程は学部から大学院での養成が進んでいる。その理由としては主に下記が挙げられる。

① 学部学生の履修単位数が増加し、負担が大きいこと。
② 実習先の確保が難しいこと。
③ 学部では他の授業や実習期間を避け、夏季休業中などに助産学実習等を行うことから、助産学実習期間内に助産師国家試験受験資格要件である正常分娩介助 10 例を経験させることが難しい場合があること。
④ 上記②、③にて学部で助産師養成課程の定員目安を定めても実習数の不足により、定めた定員目安よりも少ない人数となることが多い。
⑤ 一般的に学部学生では看護師資格がないため、分娩介助が出来ないことから、実習の効果についても課題がある。

オ）シミュレーション教育

模擬患者やシミュレーターを使ったシミュレーション教育に力を入れており、実習前に演習を行う体制が整っている。コロナ禍を契機に強化され、現在も全領域での実施を目指している。

カ）編入制度

3 年次編入学枠は 10 名で、厳しい基準を設けているため、毎年 1～2 名程度しか入学していない。

【今後の課題】

ア） 定員増加の検討

定員増加を検討するが、100 名までは内部での合意が得られる可能性がある一方で、120 名以上の増加は困難と考えられている。定員が増えると、現在の質の高い少人数教育が維持できなくなる懸念がある。

イ） 実習施設の確保

実習施設が不足しているため、保健師資格の選択制導入を検討する必要がある。また、特に小児や母性領域では施設の確保がさらに困難となっており、この問題の解決が求められている。

ウ） シミュレーション教育の拡充

シミュレーション教育を全領域にわたってさらに強化するためのシステム整備が必要。

エ） 編入制度の見直し

3 年次編入制度の基準が厳しく、入学者が少ないため、この枠を取りやめるかどうかの再検討が必要。

ⅱ）栄養学科

【現状】

ア）定員と教育体制

定員は 25 名。少人数教育できめ細やかな指導が行われ、教員との距離が近いのが特徴。

イ）資格と進路

管理栄養士国家試験の合格率は 100%で、卒業時には栄養士免許が取得可能。卒業後の進路は医療機関、老人介護施設や保育施設、食品企業、薬局など多岐にわたる。資格取得後にはエビデンスに基づいた栄養指導ができる人材が求められている。

ウ）卒業研究

卒業研究は必修で、4 年生の手前から始まり、2～3 名の学生に対して 1 人の教員が指導を行う。

エ）栄養教諭の履修

栄養教諭課程の履修者が増加しており、卒業後すぐに栄養教諭として就職した学生もいるが、千葉県では採用枠が少なく、活かせる場が限られている。

【今後の課題】

ア）単位の取得

一部の学生が単位を落とすことが問題となっており、この対策が必要。

イ）社会的ニーズ

管理栄養士の社会的ニーズは増えており、特に病気予防や食事指導の役割が重要視されている。また、数字に強い管理栄養士を育てるための教育が必要。

ウ）栄養教諭の採用

栄養教諭課程の履修者が増えているが、千葉県での採用枠が限られているため、この問題を解決するための方策が求められている。

ⅲ）歯科衛生学科

【現状】

ア）座学と診療室での歯科衛生指導

歯科衛生士教育において座学と診療室での実習が行われている。歯学部がある大学では、附属病院内や外部施設での実習が行われているが、歯科衛生士の診療室での実習は稀である。

イ）学生定員と倍率

定員は 25 名で、倍率はそれほど高くない。

ウ）進路の選択肢

卒業生の進路は主に診療所、病院、企業、自治体であり、大学院進学者もいる。

エ）高齢者を主な対象とする診療所

診療所の利用者は主に高齢者である。

オ）歯科衛生士の社会的ニーズ

社会的に歯科衛生士のニーズは高く、養成の必要性がある。

カ）就職後の離職率

就職後の離職率は低く、産休後の復職や再就職ができている。

キ）キャリア教育

長く続けられるように指導し、卒業生や先輩がロールモデルとして活躍している。

ク）男性学生の状況

これまで 4 名の男性学生がおり、2 名が卒業、2 名が在籍している。

ケ）実習施設の状況

附属病院があるため学内での実習ができるが、外部施設での実習も行われている。

【今後の課題】

ア）定員増加の困難さ

現在の施設や教員数では、定員増加は難しく、積極的に考えられていない。施設の充実や教員数の確保が必要。

イ）設備の改善

教員の増加や設備の更新が進んでおらず、備品の購入も難しい状況が続いている。

ウ）実習先の拡充

臨地実習が重要視されており、外部の実習先の確保とフォローが必要。

エ）高齢者の対応教育

高齢者が主な診療所の利用者であるため、歯科疾患だけでなく、他の視点を持って患者と関わる教育を継続する必要がある。

オ）離職者への支援

一部に離職者がいるため、キャリア教育や再就職支援を強化する必要がある。

ⅳ）ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科理学療法学専攻

【現状】

ア）国家試験合格率の高さ

12 年間で国家試験に落ちた学生は 1～2 名のみと、合格率が高い。

イ）実習先・就職先での高評価

専門学校時代から実習先や就職先で高い評価を得ている。

ウ）仁戸名キャンパス周辺の環境

仁戸名キャンパス周辺には何もなく、食事を取る場所が少ない。通学時のバス利用は本数が少なく大網街道渋滞で遅れが多発する。京成大森台駅から最短経路で通学する学生は仁戸名市民の森を通るため、夜間は暗く学生の安全面で不安がある。建物が古く、体育館が使えない。リラックスできる場所もない。

エ）2 キャンパス利用の教育体制への不満

仁戸名キャンパスの学生にとって、幕張キャンパスの A 棟は栄養学科・歯科衛生学科、B 棟は看護学科という認識があり、学生ホール棟はあるものの、1, 2 年生が幕張キャンパスで過ごす居場所が少ない。また、教員は仁戸名にいるため交流が少なく教育的配慮に課題がある。3, 4 年生は他学科との連携や交流が難しく、サークル活動なども継続できない。リハビリテーション学科以外の学生は授業などで仁戸名キャンパスに来る必要がないため、キャンパス間移動など交通費も含めリハビリテーション学科の学生にのみに負担を強いている状況である。

教員の全学的会議等は幕張で開催されるため、リハビリテーション学科の教員が移動。

仁戸名キャンパスには常勤職員の配置がなく、施設・設備の不具合などに迅速な対応ができない。学生の証明書発行など仁戸名で対応できない。

オ）高校生の選択肢としての首都圏の公立大学

首都圏の公立大学として、東京都立大学、神奈川県立保健福祉大学、埼玉県

立大学、千葉県立保健医療大学が挙がる。試験科目を基に大学を選択・受験する傾向がある。

カ）他大学との比較での不満

千葉県立保健医療大学は建物に対する不満があり、他の都立大や神奈川県立医療福祉大学、埼玉県立大学と比較して敬遠されることがある。

キ）座学での教育は充実しているが、実践教育の場が不足

座学での教育は問題ないが、実践教育の場が不足している。

ク）学力優秀な学生の他大学への流出

学力的に千葉県立保健医療大学に合格できる高校生が、順天堂大学や国際医療福祉大学などの私立大学の特待生制度を利用するケースが多い。

ケ）教員志望者の単位取得支援

教員志望者は放送大学の単位互換制度を利用し、毎年 2 単位の教育学を履修している。相談があればアドバイスを行っている。

コ）就職先の状況

医療施設への就職については、8 割の学生が千葉県内で就職しており、千葉県内の病院では内定者として選ばれている。

【今後の課題】

ア）仁戸名キャンパスの環境改善

食事を取る場所が少ない、バスの本数が少ない、京成大森台駅から仁戸名市民の森の暗がりを通行するため学生の安全確保に不安があること、建物の老朽化や体育館の利用不可、リラックスできるスペースの不足など、キャンパス環境の改善が必要。

教室・実習室が手狭で数が少なく、特に 4 年生での卒業研究や国家試験対策学習で使用する少人数のセミナー室が不足。

イ）実践教育の強化

実習や実践教育の場を拡充する必要がある。教員は公務員であり兼業できないため臨床経験を積むことができず、実践に則した教育に課題がある。研究においても臨床現場の課題研究ができない。

ウ）建物の老朽化による不満の解消

学生からの建物に対する不満を解消するため、施設の改善が求められる。

エ）2 キャンパス教育体制への不満の解消

キャンパスが分かれていることで多職種連携教育の推進に課題がある。キャンパス間移動など交通費も含めリハビリテーション学科にのみ負担を強いている状況の改善のため、幕張キャンパスへの統合が強く望まれる。

オ）定員増加の可能性と限界

現在の定員 25 名を 40 名まで増やすことは可能だが、教員や設備の充実が必

要。また、40 名以上の定員増加には難しさが伴う。

カ） 就職支援の継続

千葉県内での就職の見込みがあるが、定員増加後も引き続き就職支援を強化する必要がある。

ｖ）ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科作業療法学専攻

【現状】

ア） 教育の質とケア

講義、実習などの教育内容の質が高い。また入学定員 25 名できめ細かい指導が可能。国家試験も近年は毎年 1 名程度不合格者が出るが、全国平均と比較して総じて高い合格率で推移。優秀な学生が多く少人数でレベルの高い教育ができること、学生募集が円滑であることは教員の満足度にもつながっている。

イ）仁戸名キャンパスの施設および周辺環境、2 キャンパス体制の不満

理学療法士専攻と同様。

ウ）作業療法分野の現状

・発達障害・学習障害・自閉症等学校作業療法のニーズが増加する見込み。
・成人分野：病院にほぼ 100%就職しており、収入も安定している。
・高齢者分野：疾患治療（理学療法）が中心だが、予防に課題がある。
・地域・自治体、介護分野：ほとんど人材がいないため、ここに就職する人材を育成する必要がある。

エ）作業療法士としてのスキル

・アドミニストレーションやリサーチ能力が必要。
・病院にはその能力を持つ人材がいるが、地域にはいない。
・コミュニティベースでの活動が求められる。
・組織を立ち上げる力（会社設立やビジネス的な考え方）が不足している。
・訪問看護などの立ち上げが千葉県での課題。

オ）卒業生の進路

99%の学生が医療関係、病院就職者が多い。課題としては、地域自治体に就職する人がほぼいない。

保健医療大学（保医大）には質の高い資質を持った学生がいるが、大学院がないので、卒業生は都立大や筑波大の大学院に進学してしまう。

カ）入学ニーズ（高校生・社会人）

高校生認知度は、理学療法士に比べ作業療法士は低く、私立大学での養成課程設置が進まない。

社会人入学は過去は毎年 1～2 名いるが近年は少ない。職種の特性上、社会に出て初めて必要性が認知される特徴があり、一部にはキャリア転換として作業療法士に転向する人もいたが、数として増えず難しい。

キ）定員

入学定員 25 名よりも 40 名へ定員増する方が、今後の公立大学法人化等も考えると収支バランスが取りやすいと思われる。

25 名定員は公立だからこそ可能であると思う。

一方で、入学定員が少ないことで、教育面のメリット（教育の質と学生へのケア）もある。

【今後の課題】

ア）地域貢献できる人材の育成

病院でのキャリアで終わることが多く、地域に貢献するための起業（スタートアップ等）を目指す人材が必要。

コミュニティベースで作業療法を実施できる人材が地域に不足している。

訪問看護の立ち上げや組織構築力を持つ人材を育成する必要がある。

イ）教育機関の役割強化

拠点となる教育機関および公立大学として、地域に貢献できる人材の育成により注力できると良い。

学部は作業療法士養成課程としてカリキュラムの制約があり、大学院等でビジネスや起業等を扱うことも一考。

（2）職員ヒアリング

① 職員の異動課題について

- 県職員の異動（2～4 年周期）により、引継ぎの直後は、事務の停滞や混乱が発生しやすい。
- 短期間で異動がある県職員が事務局を担当している限り、長期的な視点で事務処理の質の向上・改善を行うことは難しい。
- 学校事務は業務の質が異なり、学生対応や実習・入試業務など他の行政機関には無い業務が多く、職員にとっては過去の経験（スキル）が活かせない面が多い。また、スキルを発揮できない場合であっても、現場の都合で簡単に異動することが困難である。
- 窓口業務など、会計年度任用職員の役割が大きいが、雇用の継続が不透明である。
- 窓口業務の一部委託も検討の余地がある。

② 事務手続きの電子化

- 証明書申請等の窓口対応が電子化されれば、業務負担が軽減する見込み。

③ 会議運営の効率化

- 多数の委員会の開催・運営にかかる調整に時間を要しており、運営方法の改善が必要。

④　研究費管理体制

- 科研費の執行で、紙伝票や手入力に依存しており、ヒューマンエラーのリスクが高い。
- 県を経由した日本学術振興会や他大学からの外部資金の振込手続が煩雑であり、事務負担となっている。

⑤　学内ネットワーク課題

- 携帯電波や Wi-Fi 環境が不十分で、インターネットアクセスが困難なエリアが存在。
- 携帯電波については、キャリア会社に相談するも対応困難な状況が継続しているが、学内 Wi-Fi 環境については 2025 年 2 月にシステム更新を予定しており、改善予定。

以　上

資料２－３

○他大学事例調査について

神奈川県立保健福祉大学
（横須賀キャンパス、横浜（二俣川）キャンパス、
川崎（殿町）キャンパス）

日　時	令和6年10月25日（金）9:00～17:00
先　方	（全工程） 神奈川県立保健福祉大学　金井　信高　副学長 （横須賀キャンパス） 神奈川県立保健福祉大学　村上　明美　学長 同　保健福祉学部　菅原　憲一　学部長 同　事務局　松谷　順子　事務局長 （横浜（二俣川）キャンパス） 同　実践教育センター　古矢　尚子　実践教育部長 〃　比留川あゆみ 企画教育部長 （川崎（殿町）キャンパス） 同　ﾍﾙｽｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｽｸｰﾙ　沖田　弓弦　担当部長
当　方	千葉県医療整備課、日本開発構想研究所 千葉県立保健医療大学　龍野学長、河部看護学科長
ヒアリング事項	大学の基本情報（卒業生の進路等） 多職種連携教育 大学院における教育研究 教育研究以外の機能 その他

ヒアリング内容

１．大学の基本情報

- 大学は平成15年開学。
- 学部学科は現在１学部４学科で構成。
- 保健福祉学部看護学科（入学定員90名）、同栄養学科（40名）、同社会福祉学科（60名）、リハビリテーション学科理学療法学専攻（20名）、同作業療法学専攻（20名）。
- 大学院は現在２研究科で構成。
- 平成19年に大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻修士課程（現在の博士前期課程）、平成29年同博士後期課程開設。令和元年度ヘルスイノベーション研究科修士課程、令和３年度に同博士課程開設。
- 保健福祉学研究科保健福祉学専攻博士前期課程は看護領域、栄養領域、社会福祉領域、リハビリテーション領域の４領域を設定し、領域毎に修士（看護学）、修士（栄養学）、修士（社会福祉学）、修士（リハビリテーション学）を授与。博士課

程は領域の設定はなく、学位は博士（保健福祉学）を授与。

- その他機能は、実践教育センターを大学開学と同時に開設（合併した旧衛生短期大学の敷地に開設）
- 令和6年度入学者に占める県内出身者率は64.5%（151名／234名）である。また、令和6年3月卒業生でかつ就職者に閉める県内就職率は66.5%（147名／221名）であり、いずれも他の公立大学と比較しても高い傾向がある。
- 大学院の構成及び定員は保健福祉学研究科（M25名・D5名）、ヘルスイノベーション研究科（M15名・Ｄ２名）である。

２．他職種連携教育

- 大学のミッションとして「ヒューマンサービス」を掲げている。これは各々の専門的視点から「人」を全体的に理解するために、他の専門職の専門性を理解することで、自身の専門の枠を超えて専門職同士でつながるといった他職種連携を超えた社会へのアプローチである。
- 具体的には、各学科を超えてともに学ぶ教育課程を編成している。
- 特に象徴科目として「ヒューマンサービス論Ⅰ」を１年前期に、「同Ⅱ」を４年後期にそれぞれ必修科目として設定し、ヒューマンサービスの理解と各専門性から対象である「人」を理解するための科目として配置している。
- また「ヒューマンサービス総合演習」を４年後期に必修科目として配置し、学科を超えた構成で複数のグループを編成し、保健・医療・福祉の事例に其々の専門性と協働する演習科目を配置し、ミッションの理解を具現化している。
- これらの授業科目は、学生の評価も高く、「資格試験前に実施される必修科目で正直履修することに後ろ向きであったが、実際に受講すると各々の専門性から対象を捉える重要性が理解できた」「実践的科目で、就職後役立った」等、概ね好評である。

３．大学院における教育研究

- 定員充足については、保健福祉学研究科は１専攻としていることから、年度により各領域に多少のばらつきはあるが、研究科全体で博士前期課程・博士後期課程共にほぼ充足している。
- 保健福祉学研究科博士前期課程では看護学領域の専門看護師（CNS）コースについてがん看護CNSコースと小児看護CNSコースの２コースを設定している。これは県立のがんセンターおよびこども医療センターがあり、高度実践看護職者の養成の目的もある。
- 但し、各CNSコースを希望する学生が1名のみであっても指定科目を開講しなければならず、コースを継続するためには継続した学生確保が必要である。
- 保健福祉学研究科博士後期課程についても入学定員5名に対し、令和4年度、令和5年度は5名、令和6年度は4名とほぼ定員通りの入学者数を維持している。

- ヘルスイノベーション研究科は、定員充足について修士課程は定員15名に対し、令和6年度入学生18名、5年度入学生14名となっている。。博士課程も入学定員２名に対し、６年度入学生２名、５年度入学生１名、４年度入学生４名となっている。

- ヘルスイノベーション研究科修士課程は、医師・歯科医師等の医療職から、一般企業まで幅広い関連業種から入学生がある。
- 社会人入学生が大半であり、長期履修制度の利用率も高い。
- 神奈川県職員も定期的に入学生がいる。事務職もしくは保健師等が毎年1名程度入学している。
- また留学生を毎年3名程度受け入れている。大学による奨学金制度を設けている。
- 修了後の進路は現職を継続し知見を活かす人、他海外での活動を行う人や起業する人などもいる。
- アントレプレナーシップについては修了後のつながりを大切にしており、月に１度、オンラインで起業した修了生や在学生等がつながる機会を作っている。
- クロスアポイントメント制度（※）の活用により、複数の教員を他大学等から採用している。

※クロスアポイントメント制度：

研究者等が、複数の大学や公的研究機関、民間企業との間で、雇用契約を結び、活動を行うことを可能とする制度。本制度の活用により、研究者等が、組織の壁を越えて活躍することが可能になる。（兼業との違い…）兼業とは、本業に支障がない業務内容・業務時間の範囲で兼業先の業務に従事すること。 クロスアポイントメントの場合は、組織間の協定のもとに業務内容や業務時間の調整ができる他、 協定内容によっては両組織のリソースを相互活用することができる。

４．教育研究以外の機能

- 実践教育センターを設置。現任教育を行っている。
- 課程（半年から1年）と研修（1～複数回）を行っている。
- 専門学校の教員を養成する課程は、神奈川県から委託を受け実施している。
- 認定看護管理者向け教育では、ファースト、セカンド、サードのすべての研修を行っている。
- 横須賀ｷｬﾝﾊﾟｽより教員が対面又はオンライン等で授業を担当するケースもある。

５．その他

- 公立大学法人化は、平成30年4月に実施。
- 法人化の理由は柔軟な大学運営と教育研究の一層の振興。その結果として、翌年令和元年度に設置された大学院ヘルスイノベーション研究科をはじめとして①クロスアポイントメント制度の導入による優秀な教員確保や、②外部資金導入円滑化による研究振興と産学官連携拡大が図られている。
- 施設の管理運営について、校舎を建築した大林組が開設後30年間、PFI（※）による委託契約を締結している。これにより大林組が施設管理、運営、修繕、警備などを一括して対応しており、これらが事務局負担の軽減につながっている。
- 職員組織は神奈川県からの出向者と契約職員で構成されており、保医大と同様の構成である。

※PFI（Private Finance Initiative：プライベイト・ファイナンス・イニシアティブ）：

「公共施設などの建設」「維持管理」「運営」などを「民間の資金」「経営能力」および「技術的能力」を活用して行う新しい手法。